

リハケアトレーナー研修（案）

中国人の方向け短期留学プラン



学校法人 衛生学園

リハケアトレーナー養成研修の目的と概要

＜研修の目的＞

本研修は、中国の「六助」の理念に基づき、日常生活の支援（ケア）にリハビリテーション（リハビリ）の専門的な視点と技術を統合できる専門人材である「リハケアトレーナー」を養成することを目的とします。単に「助ける」（六助）だけでなく、「自立を促す」（リハビリ）視点を持ち、利用者の尊厳の維持と生活の質の向上（QOL）に貢献できるプロフェッショナルを育成します。

＜リハケアトレーナーとは？＞

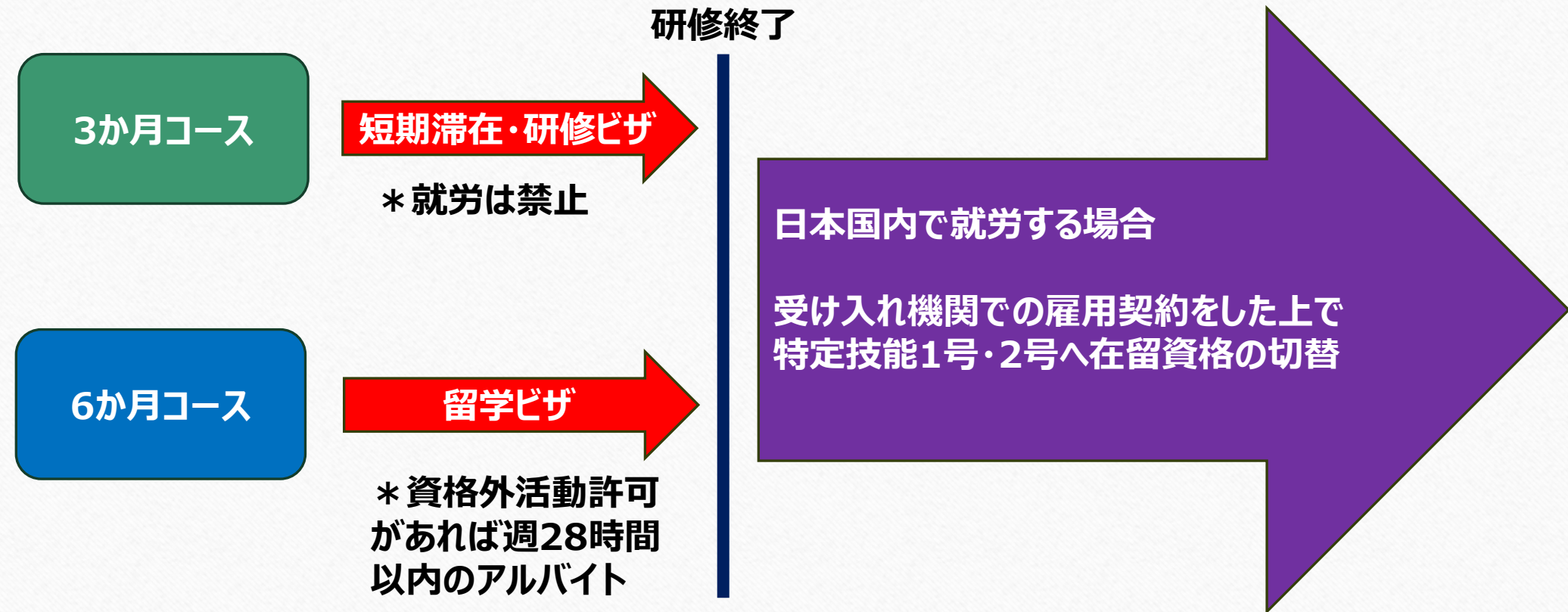
リハケアトレーナーは、利用者の残存機能を最大限に活かし、日常生活における全ての動作をリハビリの機会として捉え直す専門職です。具体的には、中国の六助で定義される六つの主要な支援領域（例：移動、食事、排泄、精神的サポートなど）の提供プロセスに、個別化された機能訓練の要素を組み込み、利用者が「できること」を増やし、活動的で自信に満ちた生活を送れるよう導きます。

リハケアトレーナーに求められる役割とスキル

リハケアトレーナーは、以下の三つの主要な役割を果たします。

役割	説明
1. 六助の専門的な実践	中国の六助の各要素について、利用者の身体的・精神的なニーズに基づいた、質の高いケアを提供します。
2. リハビリテーションの統合	従来の援助（代行）から脱却し、全てのケア行為を機能回復・維持を目的とした訓練として捉え直し、実践します。特に「生活行為向上リハビリテーション」の視点を重視します。
3. 多職種連携と情報共有	理学療法士（PT）、作業療法士（OT）などのリハビリ専門職と密接に連携し、リハビリ計画に基づいたケアを日常の中で実行し、その効果や変化を正確に共有します。

研修中～その後の在留資格



研修コース

内容は応相談

3か月・6か月

専門性強化・管理者養成基礎（3か月）

月	週	テーマ	主な内容（講義・実技）
第1ヶ月	W1	日本の介護・リハビリの基礎と安全な介助技術	日本の介護保険制度と六助の比較、リスク管理、安全な移乗・体位変換（理論と実践）。
	W2	食事・排泄介助と環境設定	食事介助・口腔ケア、排泄介助、ポータブルトイレ・おむつの知識、住宅環境調整の基本。
	W3	川平法（上肢）の徹底習得	川平法（促通反復療法）の基礎理論、適応・禁忌、麻痺側上肢の基礎～応用的な促通手技の徹底実技。
	W4	川平法（下肢）の徹底習得と生活応用	麻痺側下肢の基礎～応用的な促通手技、立位・歩行訓練への応用、日常生活動作（ADL）への展開。

月	週	テーマ	主な内容（講義・実技）
第2ヶ月	W5	訪問リハビリテーションの機能評価	訪問サービスにおける機能評価（ROM、MMT、ADL評価）の実施方法、目標設定の基本。
	W6	個別機能訓練計画の作成と実践	デイケア・訪問における個別機能訓練計画（短期・長期目標）の作成方法と、訓練内容の指導実践。
	W7	高齢者の健康管理と生活指導	バイタルチェック、服薬管理の基礎、高齢者の主要疾患（骨折、心疾患など）の基礎知識と生活指導。
	W8	認知症ケアの基礎と対応技術	認知症の基礎知識（種類と進行）、認知症の方とのコミュニケーション技術（ユマニチュードの概念など）。

月	週	テーマ	主な内容（講義・実技）
第3ヶ月	W9	BPSDへの対応と非薬物療法	BPSD（周辺症状）の具体的な対応策、タクティールケアや音楽療法などの非薬物療法の活用。
	W10	医療連携・急変時の対応と看取り	医師・看護師との情報共有の仕方、急変時の初期対応（心肺蘇生法の確認）、ターミナルケア（看取り）の基礎。
	W11	管理者基礎とサービス品質管理	サービス品質の維持・向上のための管理技術、倫理・コンプライアンス、身体拘束ゼロへの取り組み。
	W12	総合演習と帰国後の活用計画	ケーススタディを用いたリハビリ・介護総合計画の作成と実践発表、中国六助への応用ディスカッション。

6ヶ月コース：指導者・高度実践者養成

月	週	テーマ	主な内容（講義・実技・実習）
第1ヶ月	W1～W4	3ヶ月コース第1ヶ月目の内容に準ずる	基礎介助技術、川平法（上肢・下肢）の徹底習得。臨床的な適応・禁忌、応用手技まで。
第2ヶ月	W5	詳細な機能評価と目標設定	訪問・通所リハビリでの詳細な機能評価（バランス、移動能力など）、利用者主体の目標設定技法。
	W6	個別機能訓練計画の作成と指導スキル	訓練計画作成の演習、個別指導・グループ指導の方法論、指導者として分かりやすい説明の仕方。
	W7	川平法 難易度の高い症例への応用	複合的な麻痺、疼痛を伴う症例への川平法の適用と調整、技術の指導法。
	W8	高齢者の運動器・神経系の病態理解	脳卒中、パーキンソン病、骨折後のリハビリ、生活習慣病予防のための運動指導。

月	週	テーマ	主な内容（講義・実技・実習）
第3ヶ月	W9	高齢者の栄養とフレイル・サルコペニア対策	栄養状態の簡易評価（MNA-SFなど）、フレイル・サルコペニア予防のための食事指導と運動指導の連携。
	W10	摂食嚥下障害の基礎知識と訓練	嚥下のメカニズム、嚥下障害の簡易評価（水飲みテストなど） 間接訓練・姿勢調整の技術。
	W11	医療処置・連携と急変時の対応（高度）	医療処置（胃ろう、吸引、在宅酸素など）の基礎知識と連携 方法、看取りケアの倫理と実践。
	W12	臨床実習（Ⅰ）導入：現場見学と補助	デイケアまたは訪問介護・リハビリ事業所での現場見学と指導 者の補助、現場での記録方法の学習。

月	週	テーマ	主な内容（講義・実技・実習）
第4ヶ月	W13	日本の地域包括ケアシステム	地域包括支援センターの役割、多職種連携会議（ケアカンファレンス）への参加と情報共有の技術。
	W14	住宅改修と福祉用具の専門知識	福祉用具の選定（車いす、ベッド、歩行補助具）、住宅改修（手すり、段差解消）の具体的な計画と提案。
	W15	認知症BPSDへの高度な介入と家族支援	認知症の進行段階に応じたきめ細やかなケア、本人・家族への心理的な支援と介護負担の軽減策。
	W16	臨床実習（Ⅱ）：利用者への個別介入	実習先での利用者への個別機能訓練や介護ケア（指導者の指導のもと）の実施と記録。

月	週	テーマ	主な内容（講義・実技・実習）
第5ヶ月	W17	指導者養成：OJTとスタッフ指導法	OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）の実施方法、介護技術の指導・評価方法、効果的なフィードバック。
	W18	指導者養成：教育資料の作成と研修計画	研修マニュアル・チェックリストの作成、中国六助のスタッフ向けの研修計画立案。
	W19	臨床実習（Ⅲ）：ケースカンファレンスへの参加	実習先での事例検討会への参加、多職種との意見交換と連携、サービスの質の評価。
	W20	臨床実習（Ⅳ）：自立支援に向けた計画立案	実習先の利用者一人を選定し、評価からサービス計画、実践までを自ら立案・実施・報告する。

月	週	テーマ	主な内容（講義・実技・実習）
第6ヶ月	W21	倫理とコンプライアンス（管理者視点）	サービス提供における法的な責任、事故防止策、苦情対応、情報管理（プライバシー保護）。
	W22	中国六助への応用と事業化戦略（1）	日本の技術を中国の六助制度、文化、法規制に合わせてカスタマイズする応用演習、事業計画の基礎。
	W23	中国六助への応用と事業化戦略（2）	最終プロジェクト中間発表：帰国後の「川平法を活用した訪問介護・リハビリサービス事業計画」の作成。
	W24	最終プロジェクト発表と修了式	最終プロジェクトの発表と質疑応答、成果の振り返り、修了認定、帰国後のフォローアップ体制の確認。